要旨作成要領

図表を含めて2ページ内に納まるようにして下さい。

書式に則って作成のうえ、実行委員会上野　晃生宛にe-mail（akio.ueno@h-rise.jp）の添付書類としてご提出下さい。

「要旨作成例」を参考に以下の要領で、Wordにてご作成下さい。

用紙サイズ、枚数：A4、2枚

余白：上下‐30mm、左右‐25mm

文字のサイズとフォント

タイトル：18pt、ゴシックおよびArial

氏名　　：12pt、明朝

所属　　：12pt

タイトル、氏名、所属の英語表記：9pt、Roman

本文　　：11pt、特別な表記を除き明朝をご使用ください。

提出時のファイル形式：Word形式のファイルでご提出下さい。

※次ページに要旨作成例（2ページより抜粋の1ページ分）を示します。原則として上記レイアウトに則して作成し、参考までに「作成例」をご確認ください。

※また、読みこんだ場合に改行位置のズレが生じた場合には図のレイアウトが変わる場合があります。

リター層の無機化に対する加熱処理温度の影響

○川東正幸1、Prokushkin Anatoly2、隅田裕明3

1首都大学東京 都市環境科学研究科、2VN Sukachev Institute of Forest, SB RAS、

3日本大学 生物資源科学部

Effect of heating temperature on mineralization of litter horizons obtained from the Siberian Taiga Forest : Kawahigashi M.1, Prokushkin A.2, Sumida H.3, 1 Department of Geography, Tokyo Metropolitan University, 2 VN Sukachev Institute of Forest, 3 .College of Bioresource Sceinces, Nihon University

【背景】

　シベリア永久凍土上に成立する森林生態系では、低温・低蒸発散量を反映して厚いリター層（O層）が形成されている。O層は、大きな炭素プールであると同時に鉱質土壌へ長期的に保持される有機態炭素の給源としての役割も持っており、同地域が陸域最大の炭素貯蔵庫となりうる重要な因子となっている。近年、同地域で頻発する森林火災でO層が燃焼・焼失しており、炭素貯蔵庫から放出源に変わる可能性が指摘されている。火災後のO層の機能や回復過程を予測するためにもO層に対する火災温度の影響評価が必要である。これまでの研究において、燃焼温度がO層からの溶存有機態炭素および溶存無機養分量に影響を及ぼすことが明らかとなった。このことから森林火災はO層中の各種元素の形態に影響しており、有機態炭素の無機化に対しても影響を及ぼすことが予測された。そこで本研究では、シベリア永久凍土域のO層の無機化に対する加熱又は燃焼処理の影響について検討した。

【試料と方法】

　O層試料採取地は、ロシア連邦、エベンキア共和国、トゥラであり、連続永久凍土分布域に位置し、カラマツが主植生の林地である。永久凍土分布域に特徴的な地形であるハンモック地形に留意し、凸地（M）と凹地（T）、それぞれからO層試料を採取した。O層試料は、65℃で十分に乾燥したのち、105、150、250、350、450、550℃、15分間の加熱処理を施した（図１）。

O層試料

65℃での乾熱

加熱時間：15分間

250℃

350℃

105℃

450℃

550℃

図１　O層試料の加熱処理

* 発表番号の挿入等の関係で、タイトル等の位置をこちらで変更させて頂く場合があります。